

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(4月6日～4月12日)

2019年4月15日

在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が経済閣僚との会談で、ロシアに対する対抗措置の検討を指示(4/11)
- 初代駐ベラルーシ北朝鮮特命全権大使がダブキユナス外務次官に信任状の写しを手交(4/11)
- ルカシェンコ大統領がデジタル経済省の創設の要否の検討を政府に指示(4/12)

## 内政・外交

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●トルコ通信社「アナドル」によるインタビュー(4/8)

自身のトルコ訪問を控えて実施されたインタビューでの大統領発言要旨:

- ・世界各地で起きている紛争は、天然資源の豊富な国や地政学的に重要な国で起きている。つまり、いずれの紛争も、当事国にある資源を欲しがり、地政学的・戦略的に重要な位置にある国に影響を及ぼしたいと欲している勢力が望んでいるもの。ベラルーシは帝国主義的心理を有していないし、資源には関心はあるものの、力で他国に影響を及ぼしてその資源を得ようとは思わない。
- ・ウクライナ大統領選挙の行方について、予断は困難としつつも、3月1日のメディアとの会合において披瀝した、ポロシェンコ大統領勝利という予想を維持。
- ・ウクライナ国民はこれまで何度もリスクを冒して政治家を信じて支持してきたが、その度に結果は期待と裏腹だった。近年のウクライナ国民の経験は、リスクを冒してはならないことを示している。

(4/1 大統領公式サイト、ベラパン通信ほか)

#### ●経済閣僚との会談でロシアに対する対抗措置の検討を指示(4/11)

大統領は、ロシアのベラルーシに対する行動を制裁に例え、「ロシアは自国が制裁を受けており、制裁を批判している。しかし同時に、自分たちも似たような力を使い、最も近い同盟者と戦っている。」と批判。閣僚たちに対して、「我々は相応の手段をとらなければならない。検討の上、来週報告しなさい。」と指示。

(4/11 大統領公式サイト)

#### ●デジタル経済省の創設の要否の検討を政府に指示(4/12)

大統領は IT 業界代表者らとの会合の席上、政府に対して、デジタル経済省の創設の要否につき検討し、本年第2四半期に決定するよう指示。

(4/12 ベラパン通信)

## 【内政】

### ●クロパティにおける十字架撤去後の動き

- ・7日、クロパティにおいて、虐殺犠牲者の追悼と地から撤去された十字架奪還のための、約150人が集団祈禱、ミンスクでも200人以上が集団祈禱(4/7)
- ・7日、非登録野党「ベラルーシ全国会議」のニコライ・スタケヴィチが、ミンスク市内の自由広場で祈禱を行う目的で外出しようとしたところ、自宅から出たところで身柄を拘束された。
- ・8日、反政府活動家のダシュケヴィチ氏がクロパティにおける当局の行動について「国家による破壊行為」として検事総局に告発。
- ・8日、5日に身柄を拘束されていた活動家で未公認政党「ベラルーシ・キリスト教民主主義」創設委員会共同議長のセヴィリネツ氏がミンスク地区裁判所から15日間の拘留を言い渡された。また9日、野党系政治家スタケヴィチ氏、ヴィナニヤルキー氏らが相次いで13～15日間の拘留を言い渡された。
- ・10日、活動家らがルカシェンコ大統領に対して、クロパティ地区の十字架を返還し、スターリン圧政時代の文書館を開設するよう呼びかけ。

(4/7-10 ベラパン通信)

●TV局「ベルサット」が捜索を受け、情報媒体10件を押収される。(4/9)

9日ミンスク検察の提訴により同委員会は同TV局ウェブサイトへの中傷情報の捏造と発信の容疑で捜査を開始。同TV局のザレフスキー記者は、本件捜査は、昨夏に同氏が取り扱った保健システムにおける汚職に関する記事と関連しているとの見方を示した。

(4/9 ベラパン通信)

【外交】

●マケイ外相のジュネーブ訪問(4/7-9)

安全保障関連会合等への参加のための訪問。

・8日、欧州経済委員会第68会期に出席。国際社会に対して、あらゆる対立を克服するための新たな大規模多国間交渉の即時開始を呼びかけ。

・8日、ジャント市におけるベラルーシ・スイス・ビジネスフォーラムに出席。対ベラルーシ投資を呼びかけ、欧州の企業代表者に対して、ルカシエンコ大統領による「統合(機構)の統合」構想の推進者となることを呼びかけ。

(4/8 ベラパン通信)

●英国議会代表団のベラルーシ訪問

・9日、ベラルーシ上院の国際問題・安全保障常設委員会委員であり対英議会協力作業部会長を務めるオレグ・ルンモ議員が英国貴族院EU委員会委員・同対外小委員会委員のアリソン・メアリ・スッティ議員と会談。

・医学博士であり、国立外科・移植・血液学実用センターの所長も務めるルンモ議員は、同センターとオックスフォード大学との技術交流の他、専門家や患者同士の交流など、長年の協力に言及。

・2017年にベラルーシ議員団が訪英し、2018年には英国議員団がベラルーシを訪問するなど、両国間では活発な議会間交流が続いている。

(4/9 国営ベルタ通信)

●アントニオーネ中央ヨーロッパ・イニシアティブ事務総長の国営TV局インタビュー(4/7)

「ア」事務総長はベラルーシ訪問を総括し、中央ヨーロッパ・イニシアティブがベラルーシとの間で多様な分野での協力発展を見込んでいる旨発言。

(4/7 国営TV局、国営ベルタ通信)

●初代駐ベラルーシ北朝鮮特命全権大使がダブキユナス外務次官に信任状の写しを手交(4/11)

ジュ・ジョン・ボン初代駐ベラルーシ北朝鮮特命全権大使が当地着任に際してダブキユナス外務次官と会談し、同大使は「ダ」次官に信任状の写しを手交。

(4/11 外務省公式サイト)

●アムブラゼヴィ在ジュネーブ・ベラルーシ国連常駐代表が、地欧州経済委員会の議長に選出。(4/11)

(4/11 ベラパン通信)

【経済】

【国内経済】

●ベラルーシ・中国合弁自動車企業「ベルジ」敷地内に中国「吉利汽車(Geely)」の自動車用エンジン製造工場が建設予定

工場はポリソフのベルジ社敷地内に建設予定。同社は、新設される工場ではエンジンの組み立てではなく製造が行われること、さらに Geely の自動車用ラジエーターの製造拡大も実施されると発表。

(4/7 ベラパン通信)

【対外経済】

●格付け会社「スタンダード&プアーズ」ベラルーシのソブリン債を「B」に格付け。経済見通しは「安定的」。

同社は、中期的な成長率を年2%前後と予測。金準備の質的改善、輸出先の地理的多様性と輸出品の多様性、及び抑制的な財政政策とその金融政策との調和が、国家債務水準とインフレ率の安定性をもたらしていると指摘。

(4/8 国営ベルタ通信)

●世界銀行・IMF 合同春季会合(4/9-14)

11 日、同会合に出席するためワシントン D.C.を訪問中のクルトイ経済大臣が世界銀行のシリル・ミュラー欧州中央アジア総局副総裁と会談。ベラルーシが世銀との間で 2019 年末までに 3 億 USD の融資契約に署名することに対する期待を表明。

(4/11 ベラパン通信)

●ペスコフ露大統領報道官 :「ロシアはベラルーシに対するいかなる制裁も導入していない。」

11 日、ロシアがベラルーシ企業に対して市場を閉ざしているとして、現状を制裁に例えたルカシェンコ大統領の発言に対するコメントとして述べた。

(4/11 ベラパン通信)

●ロシア農業監督局がベラルーシからのリンゴと梨の輸入制限の理由を発表

12 日、同局は、ベラルーシが制裁対象品目をベラルーシ産品と偽って証明証を発給しているあらゆる証拠がある旨表明。

(4/11 ベラパン通信)

【統計・その他】

●国際通貨基金(IMF)、ベラルーシ経済に関する見通しを下方修正

9 日の IMF 発表によると、ベラルーシの経済成長率は 2019 年が 1.8%、2020 年が 2.2%と予測。2019 年のインフレ率は 5%と予測。前の週には、世界銀行も、ロシアで検討中の「税操作」による潜在的悪影響に言及しつつ、ベラルーシの経済成長見通しを下方修正していた。

(了)